

『日葡辞書』と『韓国漢字語辞典』における漢語

－「御」を冠する語を中心に－

李 仁 淳

はじめに

日本語における「御」は、一般に敬語の接頭辞として知られており、韓国語においてもその事情はほぼ同様である。日本語の場合には、既に「御」をめぐる多くの論客が多彩な見解を示しているのに対して⁽¹⁾、現に両国語での「御」を冠する漢語の意味や語彙分類に関する論はあまり見ることができない。

そこで、本稿では『日葡辞書』と『韓国漢字語辞典』に見られる「御」を冠する漢語⁽²⁾をすべて抽出し、そうした漢語がどういう意味を持ち、どう分類できるのか。また、語彙分類による両辞書それぞれの特徴と異同は何か、ということを考察していきたい。

I 考察の原則と進め方

考察に当たって、その原則と進め方は、次のとおりである。

- i 日葡辞書における「御」を冠する漢語は、原則として「御」の字音(「ゴ・ギョ」)に読まれるもののみを抽出した。
- ii 漢語であるか否か、という判定は、久松潜一監修『新潮国語辞典』(新潮社、1989)による。
- iii 漢語の語彙分類は、できるだけ国立国語研究所『分類語彙表』(秀英出版、1964)に従って類別した。
- iv 漢語の意味記述の際には、地名・城名・官名・官庁・書名に当たるものは、省いて示した。
- v 分類項目は、見出し語の右の括弧の中に示し、その項目が二つある場合は見出し語にアスタリスク(*)を付することにした。

II 「御」の字の読みと意味について

「御」の字については、『玉勝間』第14巻に⁽³⁾

御の字のこと、もろこしにては、その国の王のことならではいはず、臣下にいへることなし、此字すなはち王の事をさしていへるが如し、皇国にては、ミといふに此字をあてたれど、もとより下々にても尊みて広くいふ言なり、大御といふぞ、大かた天皇にかぎりていへる、神に申すは、すべて天皇とひとしく、御妻を后、御行を幸といふ類なり、(下略)

とある。この記述内容によってわかるように、本居宣長は「御」の和訓について触れているが、その字音に関する言及は見られない。また、下略の部分には「オ」が「オホミ」より生じたという説明が続いている。

「御」の字の読みについては、吉岡郷浦の『文語口語対照語法(修正版)』に⁽⁴⁾

文語の尊敬の意を添へる接頭詞の主なもの「おほ(大)」「み(御)」「おほみ(大御)」「おほん」「おん(御)」「お」「ご(御)」「ぎょ(御)」などがあります。

とある。つまり、「御」は「み・お・おん・ご・ぎょ」のように、五通りの読み方があると思われる。ここでは、先述のように「ゴ」「ギョ」と読まれる漢語のみを取り扱うことにする。

「ご」と「ぎょ」は、『大言海』に次のように記述されている。

ご(接頭) 御 [漢字の御(ギョ)の意ハ、天子ノ事ニ限レド、我が国ニテハ、敬語ノみ、おに借りテ用キルナレバ、妨ゲナシ、御(ギョ)ノ条ヲ見ヨ] ミ。オン。オ。御(ギョ)。物事ニ冠ラセテ、敬ヒテ云ヒ、丁寧ニ云フ語。(下略)

ぎょ(接頭) 御 (上略) (一)天子ノ御物事ニ被ラセテ、尊ビ申ス語。オホミ。オホン。オン。オミ。御衣。御感。御製。(二)常ノ人事ニモ、敬ヒテ云ヒ、丁寧ニ云フニ用キル。コレハ、お、みニ、御(ギョ)ノ字ヲ充テテ音読スルノミ、天子ノ御ニ関係ナシ。御意。御慶。

こうした『大言海』の意味記述から見て「ご」「ぎょ」の用法は、「御」の字の和訓(みお・おん)のそれとほぼ同様のようと思われる。このことは「ぎょ」の項に「コレハ、お、みニ、御(ギョ)ノ字ヲ充テテ音読スルノミ」という記述からも察し得るであろう。

Ⅲ 『日葡辞書』における語例

日葡辞書での「御」を冠する漢語と意味を示すが、その配列は二字の漢語から三字、四字の順に列べることにする。分類項目は「御」の字が敬意を持っているか否か、という点を中心となり、その他のものは、大体前記の『分類語彙表』の基準に従って類別した。

要するに、語彙分類は両様の基準によって行うが、それは「御」の主体は何か、その字の持つ意味は何か、というのが本稿の要諦になるからである。

[二字漢語](47語)

御恩(救護) 大きな恩恵。

御器(食器) [五器] 飯を盛って食べる木製の椀。

御形(植物) ある草。

御供(神) 神に供える食物。

御後(君主) 国王の居る座敷の背後の方に。

御幸(君主) 年老いた国王、あるいは、すでに即位した国王[上皇]の外出、他行。

御骨(貴人) 聖者や貴人の骨、あるいは、骨格。

御座(貴人) 貴人の座っている座席、あるいは、その場所。

御作(様相) たとえば、うまく言いまわした文句などのように、巧妙なもの。また、立ち毛、作柄。また、工作物、または、仕事。

御酒(敬意) 酒の尊敬した言い方。

御書(君主) 公方、屋形、あるいは、身分の高い主君の書状。

御所(君主) 公方、または、すでに隠居した国王[上皇]の宮殿。また、公方自信をさす。

御状(貴人) 貴人の書状。尊翰。

御諚(貴人) 貴人の命令。

御前(貴人) 貴人の前。尊敬の意を示すために、特に婦人の名前に添える語。

御膳(貴人) 高貴の人に供える食物の載った食卓[膳]。

御亭(夫婦) または、御亭主とも言い、むしろその方がまさる。家の主人。すなわち、家の主。または、亭主。

御殿(君主) 国王の宮殿。

御脳(君主) 国王の病氣。

*御廟(神・貴人) 神や高貴な死者の墓。

御辺(敬意) 貴所に同じ。あなた。

- 御方(敬意) おん方。同上。
- 語幣(神) 神を切って一本の細い棒につり下げたもので、異教徒が神のでの儀式に用いるもの。
- 御報(尊敬) 尊敬すべき人へ送る、手紙による返事。
- 御坊(敬意) 坊主、すなわち、宗教家[僧侶]。尊敬した言い方。
- *御免(植物) 婦人用の単皮や手袋を作るのに用いる、柔らかくて紫色をしたある種の草。
(貴人) 貴人が与える許し。
- 御物(貴人) 貴人の着物などを納めておく四角な大箱の一種。また、貴人の家具、あるいは、財物。
- 御用(尊敬) 尊敬すべき人の必要とするもの、または、用事。
- 御覧(貴人) 貴人が見ること。
- 御領(貴人) 貴人の領地、または、財産。
- 御意(貴人) 貴人の命令。
- 御衣(君主) 国王の着物。
- 御宇(君主) ある国王の時、または、代。
- 御暇(尊敬) 時間的余裕、あるいは、用事のない時の意で尊敬すべき人について言う。
- 御駕(貴人) 高貴の方の輿。
- 御感(君主) 主君がその家来のした何事かに満足し喜ぶこと、また、それを褒めること。
- 御慶(言語) 喜びや祝いの気持ちなどを述べたりするのに用いられる言葉。
- 御剣(君主) 国王、または、公侯の剣。
- 御札(敬意) 尊敬して言うところの書状。
- *御舟(君主) ある主君とか尊敬すべき人とかが乗っていく舟。
(尊敬)
- 御出(君主) 国王、または、公侯の外出・他行。
- 御寝(尊敬) 尊敬すべき人が眠ること。
- 御製(君主) 国王の作った詩、あるいは、歌。
- 御盃(貴人) 貴人の盃。
- 御簾(貴人) すなわち、貴人の所の戸口や窓の内に垂らす簾。
- 御面(敬意) 御面前の意で、話題にしている人を敬って言う。
- 御影(敬意) 画像の尊敬した言い方。

[三字漢語](11語)

御供所(神) 神に供える食物を作る所。

御公役(君主) 主君の命によって勤める義務的な奉公。

御公領(君主) すなわち、君の御知行。主君が家臣に配分しないで、自分自身に充てた知行、すなわち、領地。

御苦勞(敬意) 苦勞・難儀の意を尊敬して言う語。

御亭主(夫婦) 「亭主」に同じ。

*御廟所(神・貴人) 「御廟」に同じ。

御本所(貴人) 最初の所、昔の場所。また、一般の公家をよぶ名前で、御本所というように、必ず御をつけて用いられる。また、上では、本所はある地所とか家屋とかの借料・年貢を納める相手たる領主権の所有者を言う。

御寝所(尊敬) 尊敬すべき人の寝所、または、寢床。

御料所(君主) 王位に属する領地、すなわち、国王私有の領地や土地。

御料人(貴人) 貴人の娘とか、貴人ほどではない人の娘とかを尊敬して言う。

御簾中(貴人) 奥方、すなわち、屋形、あるいは、大身の殿の夫人。

[四字漢語](1語)

御祈願所(君主) 国王の造った、すなわち国王が命じて建立させた寺。

以上のことをまとめて示すと、次の[表 I.]のようになる。

[表 I] #63語=59語(見出し語)+4語(分類項目が二つのもの)

区分	二字	三字	四字	計(%)
貴人	15	4		19(30.2)
君主	13	3	1	17(27.0)
敬意	7	1		8(12.7)
尊敬	5	1		6(9.5)
神	3	2		5(7.9)
夫婦	1	1		2(3.2)
植物	2			2(3.2)
救護	1			1(1.6)
食器	1			1(1.6)
様相	1			1(1.6)
言語	1			1(1.6)
計(%)	50(79.4)	12(19.0)	1(1.6)	#63(100)

(「尊敬」というのは、尊敬すべき人のことである。)

上の[表 I]より、次のようなことを解し得るであろう。

語彙分類は、11項目に類別しているが、そのうち「貴人・君主・敬意・尊敬・神」は、いずれも敬意に関わるものだから、一つにまとめて考えても構わないであろう。

漢語の構造においては、二字漢語が79.4%あり、三字・四字漢語がそれに続いている。

「御」が中国語では王のことに用いられるのに対して、日本語では敬意を示すべき対象—例えば、貴人・君主・神・尊敬すべき人—だけでなく、日常の物事に対しても広く使われていることが分かる。

IV 『韓国漢字語辞典』における用例

韓国漢字語辞典での「御」を冠する漢語と意味を示すが、その配列順と項目分類の基準は日葡辞書のそれと同様である。ただ意味記述の際は、先に述べたように「地名・城名・官名・官庁・書名」などは、略すことにする。(韓国語の日本語訳は筆者による)

[二字漢語](64語)

- *御間(君主) 国王のみが使うひと間、または、戸口。
(住居) 寺の法堂、または、大きな部屋の真ん中にある間。
- 御甲(君主) 国王が着る鎧。
- 御耕(君主) 国王が籍田に出て、自ら田圃を耕し、また植えること。親耕。
- 御考(君主) 国王が自ら察し、問いただすこと。
- 御庫(君主) 国王が私的に使う宮闕の中にある倉庫。
- 御供(君主) 国王の供用。
- 御教(君主) 国王が下した命令。
- 御橋(君主) 国王のみが渡る橋。
- 御裘(君主) 国王が着る毛衣。
- 御女(天体) 星の名。軒轅の第14星である女主の下にある小さな星。女御。
- 御纛(君主) 国王の出御の際に、大駕の前に立てる旗の一つ。
- 御理(君主) 国王が国と民を治めること。
- 御履(君主) 国王が履く履物。
- 御笠(君主) 国王がかぶる冠。
- 御幕(君主) 国王が臨時に泊まる所に張る帳幕[天幕]。御幄。
- 御網(君主) 国王がかぶる網巾。

- 御妹(君主) 国王の妹。
御麦(植物) 麦の一種。
御命(君主) 国王の命令。
御門(君主) 国王のみが出入りする門。
御物(君主) 国王が使う物。
御米(植物) 芥子[罌粟]の種。
御宝(君主) 国王の玉璽と玉宝。
御譜(系図) 王室の系図。
御批(君主) 上疏に対する国王の答え。批答。
*御史(君主) 地方政治を視察するため国王が秘密に派遣した臨時の官吏。
(官名)
御射(君主) 国王が弓を射ること。
御賜(君主) 国王が臣下に物品を下賜すること。
御床(君主) 国王の食事を整えるお膳。国王の寝床。
御膳(君主) 国王に差し上げる食膳。
御洗(君主) 国で行う祭祀の際に、国王が手を洗う所。
御需(君主) 国王が食べ、また着るのに使われるいろんな物品。
御乗(君主) 国王が乗る車と賀籠をいう。
御室(君主) 国王が暫く泊まり、休む部屋。
御幄(君主) 国王が臨時に泊まる所に張るとばり。
御押(君主) 国王の花押を彫った判子。
御薬(君主) 国王が服用する薬。
御醞(君主) 国王が飲む酒。
御用(君主) 国王が使うこと。
御容(君主) 国王の顔。
御轎(君主) 国王が乗る車。
御匣(祭器) 祭器の一つ。
御印(君主) 国王の判子。
御蹟(君主) 国王の筆跡。
御田(君主) 国王が自ら耕す田畑。

- 御井(君主) 国王が飲む水を汲む井戸。
- 御幟(君主) 国王の肖像。
- 御題(君主) 国王が自ら科場に出て出す文章の題。
- 御厨(君主) 国王の食事の用意をする台所。
- 御真(君主) 国王の肖像画。睥容。
- 御進(君主) 国王に物を差し上げること。
- 御倉(古制) 朝鮮時代、御営庁所属の倉庫。御倉庫。
- *御帖(君主) 国王の名刺。
 (古制) 耆老所に保管した国王の入社帖。
- 御牒(君主) 王室の系譜を簡略に記した本。
- 御胎(君主) 国王の胎。
- 御判(君主) 上奏した案に対する国王の判決。
- 御牌(君主) 国王が下賜した牌。
- 御下(支配) 目下の者を治めること。
- 御翰(君主) 国王が書いた文章。
- 御香(君主) 祭祀の差、国王が下賜する香。
- 御郷(君主) 国王の祖先が生まれた所。即ち、璿源大郷、皇妣の内外郷、皇祖妣・皇曾祖妣の内外郷、王妃の内外郷をいう。
- 御花(君主) 祝宴の時、国王に捧げる花。
- 御畫(君主) 国王が書いた絵。
- 御諱(君主) 国王の名前。
- [三字漢語](36語)
- 御車勢(武芸) 鋭刀を使う姿勢の一つ。
- 御軍幕(君主) 国王が行幸の途中に休む幕営。国王の車が泊まる幕次。
- 御園子(植物) 菊の一種。
- 御内室(借用) 昔、日本の関白以下各州太守の妃嬪を称する言葉。
- 御耒耜(君主) 国王が籍田を耕す時使う犁。
- 御留花(植物) 海棠花[浜梨]の別称。
- 御笠匠(君主) 御笠を作る仕事に携わる職人。
- 御馬鞭(植物) 蜆花の別称。

- 御網匠(君主) 御網を作る仕事に携わる職人。
- 御米稻(植物) 稻の一種。
- 御米粥(食物) 罌粟の実を竹漚に加え、米を入れて炊いた粥。
- *御飯米(君主) 国王の飯を炊くのに用いる米。
(植物) 遅く実る糯米の一種。
- 御房帳(君主) 国王が臨時に泊まる部屋に張るとばり。
- *御白米(君主) 国王に捧げる白米。王白。
(植物) 稻の一種。色が白い。老人稻。
- 御服馬(君主) 国王が乗る馬。
- 御分田(君主) 国王所有の田畑。
- *御賜花(君主) 国王が文科・武科に及第した者に下賜した紙製の造花。
(植物) 宮中宴[進饌]の際、臣下たちが紗帽に挿した花。
- 御書閣(君主) 国王が書いた筆跡や書籍を保管した殿閣。御筆閣。
- 御書房(君主) 国王が書いた筆跡や書籍を保管した部屋。
- 御膳所(運輸) 漁船を作った所。
- 御乗馬(君主) 国王が乗った馬。
- 御愛松(植物) 朝鮮正祖の際、ソウルの於義洞、南怡將軍の家の敷地にあった松。
- 御愛黄(植物) 菊の一種。芍薬の一種。
- 御營軍(古制) 朝鮮時代、御營庁に所属した軍隊。
- 御衣襪(君主) 国王の衣服。「衣襪」をさらに高めて言う語。
- 御衣黄(植物) 菊の一種。芍薬の一種。
- 御在所(君主) 国王の居る御殿。
- 御齋室(君主) 国で行う祭祀の際、国王が泊まる齋室。
- 御正鼓(君主) 行幸の際、国王の居所に置いて打つ鼓。
- 御貼紙(君主) 御帖を作るのに使われる紙。
- 御筆閣(君主) 「御書閣」に同じ。
- 御筆帖(君主) 国王の筆跡を集めた本。
- 御許郎(楽曲) 科挙に及第した者が遊街する際に、唱夫が先頭に立って、舞いながら大声で発する言葉。
- 御題筒(君主) 御題を入れる筒。

御厨物(君主) 御厨に置いてある物品。

御倉庫(古制) 「御倉」に同じ。

[四字漢語](16語)

御街行令(楽曲) 楽曲名。高麗時代、宋から入った唐楽の一つ。孤鴈児。

御考恩賜(古制) 朝鮮時代、国王が自ら成均館・四学の居齋儒生に講書・製述に関する試験を行い、式年文科会試や初試の応試資格を与えること、または、その資格を獲得した人。

御考初試(古制) 「御考恩賜初試」の略称。

御舞祥審(君主) 新羅時代、憲康王鮑石亭に出御した際に、南山の神である祥審が国王の前で踊ったと言われる舞。

御舞山神(君主) 「御舞祥審」の略称。

御方渴水(飲料) 咽が渴いた際に飲む清涼飲料の一つ。

御史別単(文書) 御史が国王に差し上げる別単。

御史書啓(文書) 御史が書いた復命書。

御乘龍舟(君主) 国王が乗った舟。

御用衣櫛(君主) 国王が使った衣櫛。

御前巡牢(君主) 国王の出御の際に、御駕の前に立てる巡令手と牢子。

御前信箭(君主) 国王が都城の外に出御する際に、御駕の前に垂らし立てる信箭。

御製詩文(君主) 国王が作った詩文。

御製草本(君主) 国王が作った詩文の草本。

御室湯子(君主) 御室にあるお風呂。

御宝告身(君主) 国王の玉璽を押した告身[官吏に与える任命状]。

[五字漢語](1語)

御前大旗幟(君主) 国王が都城の外に出御する際に、御駕の前に垂らし立てる大旗幟。

以上のことをまとめて示すと、次の[表Ⅱ]のようになる。

[表Ⅱ] #180語=174語(見出し語)+6語(分類項目が二つのもの)

区分	二字	三字	四字	五字	六字	七字	八字	九字	計(%)
君主	56	22	10	1					89(49.4)
書名		1	6	7	11	1	4	1	31(17.2)
官名	5	5	5	3					18(10.0)
植物	2	10							12(6.7)
官庁	2	4		1					7(3.9)
古制	2	2	2						6(3.3)
系凶	2								2(1.1)
文書			2						2(1.1)
楽曲		1	1						2(1.1)
住居	1								1(0.6)
天体	1								1(0.6)
祭器	1								1(0.6)
支配	1								1(0.6)
武芸		1							1(0.6)
食物		1							1(0.6)
運輸		1							1(0.6)
飲料			1						1(0.6)
地名		1							1(0.6)
借用		1							1(0.6)
計	74	50	27	12	11	1	4	1	#180(100)
%	41.1	27.8	15.0	6.7	6.1	0.6	2.2	0.6	100

上の[表Ⅱ]より、次のようなことが分かるだろう。

漢語の語構成の面においては、二字漢語が41.1%あり、それに三字・四字・五字などの漢語が続いている。また、日本語が四字までの用例しか見当たらないのに対して、韓国語は九字まで造語が可能だという点である。こうした漢語の造語力というのは、両国語における漢字音の特質と何らかの関係があるように思われる。

両国語での漢字音の特質について、沼本克明氏は⁽⁵⁾

朝鮮漢字音の場合には、各文献資料で多少のゆれを見せながらも、原則として一漢字一字音形のみしか伝承されていない。そして、朝鮮漢字音の一漢字一字音の各々は、ある場合には日本漢字音の「呉音」にあたるものであったり、ある場合には「唐音」にあたるものであったりする。つまり、朝鮮漢字音では、移植のされ方としては日本漢字音と同じように間歇であったけれども、その伝承の過程の中で旧来の字音も新来

の字音も区別されることがなくなり、その中の一字音が一漢字の音形として定着したことになる。(下略)

とある。要するに、長大語の造語力に限って見ると、「層的伝承」を持った日本語に比べて、一漢字一音形の韓国語がすぐれている言えよう。

「御」の字の意味は、国王のことに関する語例が49.4%あり、その点では、日本語より中国語と類似していると見られる。それというのも、日本語が王のみならず、貴人・尊敬すべき人・夫婦など、身分を問わず広く使われるのに対して、韓国語と中国語はある「特定の人物」の前に付して用いる際には、王のことに限るからである

「君主」の次に、「書物」という項目が続いているが、例えば、

御製自省編 英祖が自分の読書と日常生活を通じて感じたり、思ったりしたことをまとめて撰じたもの。

のように、そのうち大部分が王のことに関するものである。「御内室」という語例が見られるが、それは日本語からの借用語であり、また、

御内室 昔、日本の関白以下各州太守の妃嬪を称する言葉。

という意味記述のみである。

「御」を冠する漢語のうち、今一つ特徴というべきものは、「植物」に関する語例が比較的多数にのぼるということである。

分類項目の数からみて、『韓国漢字語辞典』での「御」を冠する語の用法は、『日葡辞書』のそれと同じく様々な語の前に付いて使われることが知られる。

おわりに

これまで『日葡辞書』と『韓国漢字語辞典』における「御」を冠する漢語を取り扱い、その意味と語彙分類、さらに両辞書での特徴と異同を中心に調べてきた。その調査の結果を示すと、次のようである。

語彙分類では、日本語と韓国語がそれぞれ11、20項目あり、いずれも広い範囲に渡って類別されることが分かる。

漢語の語構成の面では、日本語が四字までの語例しか見られないのに対して、韓国語は九字という長大語まで造語できるということを解する。つまり、長大語の造語力に局限して見ると、「層的伝承」を持った日本語に比して、一漢字一音形の韓国語がよりすぐれていると思われる。

いずれにせよ、漢語の造語力というのは、両国語での漢字音の特質と何らかの関わりがあるだろうと思う。

「御」の字の意味用法の面では、日本語が王のことに限らず、「貴人・尊敬すべき人・夫婦」など、身分を問わず用いられるのに対して、韓国語は中国語と同じく、ある「特定の人物」の前に付して使う際には、王のことに限るということである。

両辞書での分類項目のうち、語例の数は異なるものの、共通して見当たるのが「植物」という項目である。また、両辞書いずれも「君主」という項目が、多数を占めているのが一つの特徴である。

注

- (1) 佐藤喜代治編『語彙研究文献語別目録』(明治書院、1983)、52頁、114頁、133頁参照。
- (2) 韓国語においても日本語と同様、「漢語」という術語を用いるが、それはどこまでも考察の便宜上漢語の統一のためであり、「漢字語」というのが適切な言い方である。何故なら、韓国漢字音は日本と異なり原則として一字一音を特徴とするからである。
- (3) 日本思想大系『本居宣長』(岩波書店、1978)、466頁—467頁参照。
- (4) 吉岡郷浦『文語口語対照語法(修正版)』(光風館書店、1926)、25頁—26頁参照。
- (5) 沼本克明『日本漢字音の歴史』(東京堂、1986)、6頁参照。

(イ インスン/韓国 水原大学校日本語学科 助教授)